



ご挨拶

みなさん、明けましておめでとうございます。今年も宜しくお願いします。
今年度は、課題が私の内外にたくさん存在していて、まだ思い描けていないのが現状です。一つ一つ戦略をねってゆきます。負けるわけにはいきません。一方、このところ、診察室で皆様と話しあう時間が減ってきました。そろそろ、「おかむら通信・別冊」を隔月おきくらいのペースで作ってゆきます。

今月の言葉

人間とは何でしょう。生まれたときは本当に性善説でいいのでしょうか？人を思う心、自分より他人を思う力、見捨てない精神力が必要です。院長

第 2 回 <庸介先生のやさしいお話>

腹痛の場所や時間から考える病気の種類について

③大腸癌の症状

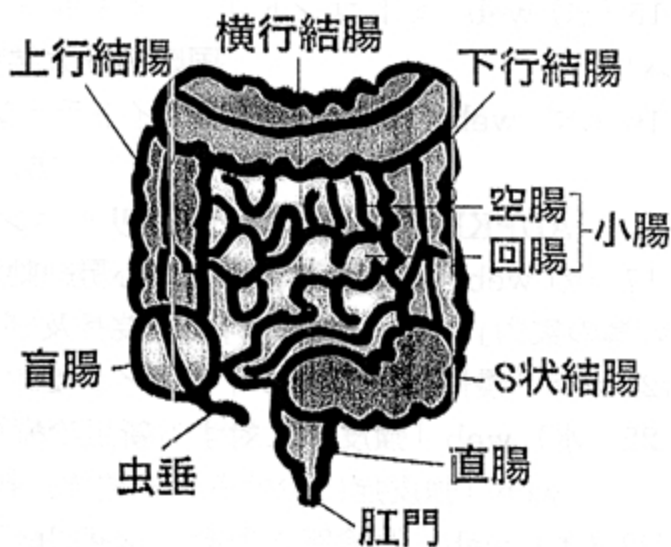
これまで①②で胃がんや膵がんなどの症状については触れたと思いますが、今回は大腸がんの症状について少し詳しく説明したいと思います。症状は主に「つまる」と「出血」することの 2 つです。ただ、癌が出来た場所によって症状が変わってきます。何故なら、便は少しずつ水分が吸収されるので、入口に近い盲腸ではまだ水っぽくて、出口に近い直腸まで来ると固くなっているからです。

大腸は右図の通り、盲腸→上行結腸→横行結腸→下行結腸→S 状結腸→直腸に分かれます。この順番で少しずつ便は固

くなっていきます。便が固くなっている S 状結腸や直腸では、癌で通り道が狭くなっているため、つまったり、出血しやすいんです。便秘になったり、少しずつしか便が出ない（張り腹）とか、便に血が混じったりします。しかし便がやわらかい盲腸や上行結腸では、完全に狭くならないと便秘にはなりませんし、出血もひどくはないんです。だから気づくのが遅れちゃいます。逆に、症状がないのに周りの人から「すっごく白いよ。大丈夫？」と言われたら、この場所の大腸がんの可能性があるので、少しずつ少しずつ貧血が進んで、本人は気づかないというパターンです。その場合はすぐに腹部 CT や大腸内視鏡を受けましょう。以上です。ご参考下さいね。

庸介先生より

～ 12 月、院長の WEB 講演会や院内外活動です ～





12/01 (水) web 「より効果的な糖尿病治療の工夫」 順天堂浦安病院 准教授
 /02 (木) web 「統合失調症治療のためのセミナー」 関西医科大学 教授
 /03 (金) web 「脳を守るセミナー①奇異性脳梗塞治療 ②塞栓症予防③血栓除去治療
 東京ベイ浦安市川医療センター・千葉県救急医療センター
 /04 (土) web 地域連携フォーラム (浦安病院) 「基本的な糖尿病管理の重要性」
 「コロナ禍のまとめと収束への道筋」

浦安病院糖尿病内分泌科教授 及び 同呼吸器内科 教授
 /07 (火) web 「新型コロナ後遺症治療最前線」岡山大学病院総合内科総合診療科
 /08 (水) web 「パーキンソン病とリハビリ」 国立病院機構東名古屋病院
 /09 (木) web 「一から考えるてんかん診療」 小出内科神経科 院長
 /10 (金) web 「CKD (慢性腎疾患) における血糖、血圧管理」医療連携の重要性
 東京歯科大学市川総合病院 准教授

web 「熊本市の CKD 対策と DKD (糖尿病性腎疾患) 薬物療法 update」
 熊本大学大学院生命科学研究部腎臓内科 准教授

/13 (月) 千葉西総合病院外科小林先生と懇談「これからの医療連携について」
 /15 (水) web 「ミトコンドリア・ルネサンス～血糖降下と臓器保護のデュアリズム」
 国際福祉大学糖尿病・代謝・内分泌学 教授

/16 (木) web 「多発性嚢胞腎ガイドラインに基づいた ADPKD 最新の治療」
 市川駅前本田内科クリニック 院長

「ADPKD の画像診断とスクリーニングの実際」新松戸中央病院放射線科
 /17 (金) web 「実地医家目線での心房細動治療を再考する」「DOAC (抗血栓剤) の真の実力」
 土橋内科医院院長及び東邦大学大学院循環器内科 教授

/21 web 「慢性膵炎診療ガイドライン 2021」東京女子医科大学消化器内科教授
 /22 (水) web 「強皮症に対する新規治療法」東京大学大学院医学部皮膚科講師
 web 「強皮症における自己抗体、新たな自己抗体検出法」 同 教授

/23 (木) web 「保険医講習会～診療報酬担当規則徹底のための～」
 千葉県医師会および厚生局 主催

/27 (月)web 「希少な疾患の勉強会」

- 1 発作性夜間ヘモグロビン尿症 (PHN) 大阪大学 血液腫瘍内科学 教授
- 2 低ホスファターゼ症 (骨系統疾患) 大阪大学 小児科 教授
- 3 血栓性微小血管症 (TMA) 奈良県立医科大学 名誉教授
- *血栓性血小板減少性紫斑病 (TTP) *非典型溶血性尿毒症症候群 (aHUS)
- 4 視神経脊髄炎スペクトラム障害 (NMOSD) ～早期発見、早期治療が患者の未来を守る～
 慶応大学医学部神経内科 教授

○総合診療的に多くの疾患を広くみてきましたが、患者さんの命を守るためごくまれな希少疾患を見つける努力も医師に求められていると思いました。 院長

